

第3回 常滑市立図書館基本構想策定委員会 議事要旨

日 時：令和7年10月20日（月）

14時00分～16時30分

場 所：常滑市役所1階 会議室F

1 開 会

2 議 事

(1) 第5回図書館市民ワークショップについて

- ・事務局より、第5回図書館市民ワークショップの開催概要について説明

(山田朝夫 委員長)

- ・全5回を振り返って、市民ワークショップの感想などを聞いてみたいが、出席された委員の方どうだったか。

(赤尾恵子 委員)

- ・メンバーのみなさんが図書館のことを「自分事」と捉えて活発に議論されていた。若い方から高齢者まで色々な年代のメンバーがいたが、それぞれの意見を否定することなく、お互いに意見を受け止めながら進めていたのが非常に印象に残っている。

(久田博司 委員)

- ・立地一つをとっても、メンバーで意見が異なり、これが突出して多かったというものがなかったが、それぞれがより良い図書館のあり方を考えた結果だと思う。最終レポートでは膨大な量の意見が出ており、メンバーも自分たちの意見が余さず基本構想策定委員会に届けられるのを期待しているため、委員会でワークショップで出た意見に真摯に向かい合っていくことを期待する。

(山田朝夫 委員長)

- ・第5回のように直接自分の意見を市長や基本構想策定委員会に伝えたり、意見交換をしたりするというのは、ワークショップでは珍しい。他のメンバーの発表や意見交換の様子を聞いて、考えが変わったとか、その他何か思うところはあったか。

(赤尾恵子 委員)

- ・市長の最後の質問で市民文化会館との複合化の話が出た。具体的に

想像がつかないが、複合化すれば良いものができるのかという思いと、あまり長い時間をとらず良い図書館がほしいという思いが自分の中で葛藤してしまった。

(久田博司 委員)

- ・複合化はもうないものだと思っていたので、若いメンバーから複合化の意見が出たとき、はっとさせられた。
- ・当日も旧常滑市民病院跡地の土壌汚染について触れたメンバーがいたが、ワークショップでは紹介のあった市有地について、詳細な説明はなかったように思う。それぞれの場所で図書館を整備するにあたっては、どういったことが課題となるのかに気になる。

(山田朝夫 委員長)

- ・詳細については、場所についての議論が進んだ段階で、必要に応じて事務局より説明することとする。

(井村美里 委員)

- ・最終レポートを見ると、メンバーそれぞれがきちんと現状の課題を理解して回答していたと感じた。また最終レポートからだけでは読み取れなくても、第5回で意見発表をしたことで、回答の背景にあるメンバーの考えを知ることができて、とても良かった。
- ・統括ファシリテータとしてメンバーの意見をもれなく受け止めており、それぞれの意見の背景や思いを知っているだけに、頂いた膨大な意見や思いをどう基本構想に反映させていくか非常に悩ましい。
- ・最後の複合化の件は、市長さんの悩みが口に出てしまったようと思う。この委員会で検討する必要がある場合は、これまでの経過などがこれまでの資料からでは分からないので、詳細な情報を頂きたい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・たくさんの意見が出ていたが、整理するとアクセスや財政、防災のこと、また立地については、周辺の環境やその地域でどんなエリアが形成されているかということだった。それぞれのメンバーが何を重視するかで場所が選ばれていた。たとえば入札ならば、総合評価方式で、価格以外にもそれぞれの要素を点数化して総合点で落札者を決定するが、図書館の場合、そう単純にもいかないであろうから、新しい図書館をどこに整備するかを考えるのは非常に難しいと感じた。
- ・経緯や詳細がない中で、市長より複合化の話が突然出た。複合化となるとこれまでの議論の前提が全く変わってしまうので、あの場で質問として出すには少し拙速であったように思う。
- ・今回の委員会はともかく、次回以降の委員会で、複合化を断念した経緯や事情をきちんと説明していただき、まずは委員間で認識を共有するべきではないか。

(平野小月 委員)

- ・ワークショップには4回出席することができ、市民の立場から聞くようになっていた。メンバー全員が真剣に考えており、改めて図書館の必要性を感じさせられた。たくさんの意見があったので、同じ方向を向いてもらえるような基本構想とするのは本当に大変だと思う。
- ・市庁舎・文化会館・図書館の複合化が議論されていた後から図書館協議会にいるため、ホールの複合化について、文化協会からの反対があつて計画が無くなつたという結果は知っているが、経緯などは良く分かっていない。当時、複合化はとても良いと思っていただけに、今回、市長から再び複合化の話が出て、少し複雑な心境である。

(山田朝夫 委員長)

- ・本日は他に議題が多い。市長から出た複合化の件については、おととい急に出た話で、本日は資料も準備できていないため、次回以降、必要に応じて、経緯や制度など説明させていただく。

(2) 第2回常滑市立図書館協議会について

- ・事務局より **資料1** に基づき、第2回の常滑市立図書館協議会の開催概要について説明

(平野小月 委員)

- ・当日は、整備する場所や整備までの年数については考慮しない前提で、委員から意見を伺った。
- ・図書館協議会の委員は、学校の先生方やPTAなどの学校関係者も多いことから、小学生や中学生が利用しやすい図書館という観点からの意見が多かったように思う。
- ・市民ワークショップでも出ていたように、学習室などの意見もあったが、図書館だけでなく、公民館など別の場でも議論が必要なことではないかとも感じられた。
- ・これまで青海・南陵公民館のホールだった部分に児童書のコーナーができることで、公民館の利用に少なからず影響が出ていると思う。公民館利用者にとっては必要な場所であるので、基本構想策定委員会の場で議論した方が良いと感じている。

(豊田雄二郎 委員)

- ・一般的に図書館協議会というものは、図書館法に基づく図書館長の諮問機関だと思うが、図書館法の図書館がない常滑市では、どのような位置付けになるのか。また今回の資料のように、図書館協議会の意見は、基本構想策定委員会にどのように関係してくるのか。

(事務局)

- ・常滑市立図書館協議会は、地方自治法に基づく教育委員会の諮問機関としての位置付けである。
- ・常滑市では令和3年度の分散移転により「図書館法上の図書館」ではなくなったタイミングで、その位置付けだけを変更しており、所掌する事務や任命基準、委員定数などについては、全て分散移転前と変更なく、図書館法上の図書館協議会に準じている。
- ・例年は、年2回会議を開催し、図書館の運営について、ご意見をいただいている。今回は、図書館ワークショップの状況を報告させていただくとともに、常滑市全体の図書館サービスはどうあるべきかについて意見を伺いたく、臨時で開催した。今回の意見のまとめは、基本構想策定委員会で常滑市全体の図書館サービスを検討される際に、参考にしていただければと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・図書館市民ワークショップや図書館協議会など色々なことを開催し、意見を集めているのはとても良いことだと思うが、市が基本構想策定委員会に何を求めているのか、いまいちはっきりしない。
- ・他に開催して出た、色々な意見を基本構想策定委員会に取り込んで、何か意見をまとめていくのか、この委員会も数ある意見を聞く機関の一つとして考えているのか、どちらなのか。

(事務局)

- ・教育委員会に対して、今後の常滑市の図書館のあるべき姿を示していただくのが基本構想策定委員会であるため、前者である。
- ・図書館市民ワークショップは、ワークショップとしての意見はまとめないという前提で開催している。メンバーそれぞれが図書館について考え、たくさんの意見が出ているので、それらを踏まえて何が常滑市にとって良いのかご議論いただきたい。

(山田朝夫 委員長)

- ・第5回のワークショップの最後には、市長から、ワークショップの意見を基本構想策定委員会で吸い上げ、実現可能な具体的な意見を検討いただきたいという話があった。

(中井孝幸 委員)

- ・具体的な意見というが、一般的に基本構想策定委員会では、例えば複数の案を提示し、メリット・デメリットを伝えたうえで、今後の方向性をアドバイスするもので、最後は、市側で判断することが多い。

(山田朝夫 委員長)

- ・そのような形で委員会を締めくくることも考えられるが、ワークショップを終えて、本当に色々な意見が出たため非常に悩んでいる。あ

る程度整理をしていただきたいと思っており、可能であれば、一つの方向性を示していただけだと大変ありがたい。

(中井孝幸 委員)

- ・基本構想策定委員会で出すのは、図書館の部分についてだけと考えてよいか。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館単独で整備することになればそうであるし、他の公共施設と複合化することになった場合は、複合化施設の中にある図書館の姿を考えていきたいと思っている。

(中井孝幸 委員)

- ・複合施設にするかどうかは、別の委員会や組織で検討されるべきことであると考えているが、それで良いか。
- ・基本構想策定委員会の中で場所や整備方法に言及せず、図書館のあるべき姿や導入するＩＣＴなどの設備をまとめるということも多いが、この委員会で、整備する場所まで検討すると思って良いのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・第5回ワークショップの市長の発言を鑑みると、市長としては、そこまで望んでいる。
- ・常滑市では、文化施設に関するこれまでの経緯もあり、整備する場所について議論することになると、どうしても複合化の話が出てきてしまう事情がある。

(豊田雄二郎 委員)

- ・図書館を単独で整備するという前提でこの委員会がある。仮に複合化をすることになり、この委員会で議論するにしても、その前に常滑市のアクションプランから変更する必要があるのではないか。またこの委員会の位置付けも変わってくると思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・市として、複合化をすることが決定しているわけではない。これまで可能な限り早く、必要な図書館を整備しようと考えていたが、メンバーの方はそうではなかったため、どうすべきかと悩み、口に出てしまつたのだと思う。
- ・まずは、図書館のことを議論いただくことで良いか。

(事務局)

- ・まずは「常滑市の図書館はどうあるべきか」についてご審議いただき、場所や整備方法の話題の中で、複合化に関する話が出てきた際には、図書館側から見て、それをどう考えるかについて、ご意見をいただきたいと思う。

(3) 第2回からの修正点について

- ・事務局より **資料2** に基づき、前回からの修正点について説明

(山際史子 委員)

- ・2部構成となり、章や節が変わっているため、目次などで整理いただきたい。

(事務局)

- ・課題の整理が終わった段階で目次を作成する。

(4) 第3章 常滑市における課題の整理について

- ・事務局より **資料3** に基づき、常滑市における課題の整理について、節ごとに説明（以下、議事要旨では本記載は省略する）

(久田博司 委員)

- ・第3章では、問題点と課題が混在しているので、まずは問題点と課題を整理してほしい。またその上で、今後、これに対する目標や取組の方針が出てくる予定で、今回は、冒頭に説明があったように、課題の過不足などについて議論するものと考えてよいか。

(事務局)

- ・そのとおり。まずは課題の整理をし、その後、市の方針などを作り込んでいくことになる。もし他の自治体での取組事例やこういったことができるのではないかというアイディアがあれば、あわせてご教授いただきたい。

第1節 資料の整備

(豊田雄二郎 委員)

- ・アンケート結果で「読みたい本がない」と回答しているが、正直な所、そもそも、この社会に存在する紙媒体で、若い人が読みたい本はあるのだろうか。それとも、漫画などをイメージして回答しているようにも思うが。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館に漫画は置いてあるのか。

(山際史子 委員)

- ・ドラえもんやサザエさん等はあるが、市の方針で現在、新規での漫画の購入はしていない。学習漫画は置いている。

(中井孝幸 委員)

- ・アンケートでは、好きな本がない場合でも、そもそも本を読まない場合でも「読みたい本がない」と回答してしまうと思う。この節の前段として、使ったかったのではないかと思うが、ここでは、施設が狭あいであることや、そのせいで資料を置く場所が十分にないことを書いた方がよい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・この節でなくてもよいので、もう少し、そもそも「図書館を利用する文化がない」ということについて触れても良いのではないか。

1 資料費・蔵書冊数

(久田博司 委員)

- ・資料の数は少ない印象がある。ワークショップに参加するようになって、家族で他の自治体の図書館に行くようになったが、街にある書店より充実している図書館も多い。
- ・本がたくさんありさえすれば、それで魅力的かといわれるとそうではなくて、本を読みたいと思わせるような展示や紹介の工夫と合わせてはじめて、資料が充実していると感じるのだと思う。
- ・冒頭、ドラえもんの漫画の話題が出た。自分も家族で常滑市の図書館に行くが、読みたい子が多いのと、更新する方針がないからだとは思うが、破損や汚れがひどく図書資料として適切なのかと感じた。

(山田朝夫 委員長)

- ・資料費が潤沢な図書館では、人気の本を一気にたくさん買うようなこともあるが、流行が去ってしまうと読まれなくなってしまう。そういう運用は常滑市にはそぐわないと思う。
- ・新刊やテレビなどで取り上げられた本を一定期間貸出しないという図書館もあると聞く。常滑市の図書館のWEBサイト上でそういった本を検索すると「貸出不可」となっていることが多いが、常滑市でもそういう運用をしているのか。

(山際史子 委員)

- ・常滑市では行っていない。WEBサイト上で「貸出不可」と表示が出ているものは、予約がされているか、貸出中のものである。

(山田朝夫 委員長)

- ・図表4－2では人口一人あたりの資料費や蔵書冊数が記載されている。大きな図書館ほど読みたい本がたくさんある。一方で、人口が少ない自治体では人口で割り返した結果、数値が平均より良い結果となることもある。一般的に、指標として「人口一人あたり」は適切なのか。

(中井孝幸 委員)

- ・一般的に文部科学省の「望ましい基準」を記載することもあるが、それは人口区分ごとの上位10%の自治体の平均であり、目標とするにはよい数値ではあるが、かなり良い図書館だと思ってもらった方が良い。この表では、同規模の人口で地勢が似ているものの中で比較しているので、常滑市の現状を知る上では適当な比較をした資料であると思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・常滑市のように近隣に裕福な自治体があり、普段から車で行けるような近い距離に大きな図書館がある場合、そちらの方が資料が充実していると、どうしてもそちらに行ってしまうと思う。そういう事情がある場合には、どのような図書館のあり方が考えられるか。

(中井孝幸 委員)

- ・読みたい本がある時、自分の住む街の図書館の予約がいっぱいいて待てなければ、大きな図書館に借りに行くのは仕方ないことだと思う。ただ、それなら小さな街に、図書館が無くても良いのかといえば、そういう訳ではなく、地域の歴史・文化を残していくのが図書館の役割の一つなので必要である。
- ・また小さな街だからといって、図書館を小さくする必要はなく、それこそ大府市からわざわざ常滑市に来るような特色を図書館に持たせてほしい。
- ・一つ参考になるのが、合併してきた滋賀県東近江市の事例。図書館が7館ある中で、全ての館で同じ資料をもっていても仕方ないと考え、ある図書館は視聴覚資料を充実させ、病院の近くにある図書館は医療や薬に関する資料を増やそうなど、それぞれ蔵書に特徴を持たせている。そのため、地域全体でそれぞれの地区の人が別の地区的図書館へと動いている。小さくても周りにアピールできる強みがあることも戦略の一つだと思う。

(赤尾恵子 委員)

- ・以前、常滑市の図書館に資料をお願いしたら、蒲郡市から取り寄せしてくれた。知多半島内で何か連携はしていないのか。

(山際史子 委員)

- ・知多半島内で独自の取組はなく、愛知県内の図書館で相互貸借を実施している。

2 狹あいな図書館

(中井孝幸 委員)

- ・展示の工夫などは図書館の魅力につながるとは思うが、この節で挙げることではない。資料の話なので、資料を整備したくても、それを置く場所がなく、図書館側が何かを企画をしたくても、そのスペースがないことを課題としてあげれば良い。

(赤尾恵子 委員)

- ・読みたい本があるときは、少し遠くても市外の図書館に行ってしまう。テレビで紹介された本が読みたいと思っても、申し訳ないが、常滑市にはないだろうなと思ってしまう。大府市で探すと3冊、常滑市でも1冊あったのだが、他の市民の方もそうだと思うが、常滑市の図書館にそんな印象を持ってしまっている。

(山際史子 委員)

- ・少ない資料費の中で、何とか青海・南陵・こども図書室の3館に本を整備している。ただ、仮に資料費が潤沢にあったとしても、本を買いたくても置く場所がない。

3 電子書籍の導入

- ・意見なし

4 地域資料の充実

(山田朝夫 委員長)

- ・谷川文庫は地域資料なのか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・「常滑市の偉人が残した資料」という意味で地域資料である。
- ・谷川文庫が閉架書庫に入ってしまっているのが非常に残念。
- ・地域の偉人が残した貴重な資料であり、特に谷川先生の残したメモは、自らも若い時に感銘を受けた。

(井村美里 委員)

- ・地域の「歴史的遺産である」地域資料と書かれているので、郷土史などの印象を受けてしまう。常滑市の特徴である焼き物や空港など「地域のことが分かる資料」の方があってはいるのではないか。

(事務局)

- ・青海本館には焼き物に関する資料を集めたコーナーもあり、空港の開港以来、関連資料を集めているので、それは常滑市の特色的なものであり、常滑市のことがわかる資料である。ご意見いただいたように変更する。

(中井孝幸 委員)

- ・地域資料の話題が出たが、滋賀県にあった愛知郡愛知川町では、昔から、新聞の折り込みチラシ、町内のお店のメニューから町に貼ってあるポスター、子供達が授業で作った地域のことを調べてまとめた資料まで、地域資料として収集しており、その姿勢は合併後も変わらず続けられている。
- ・20年後、30年後の次の世代が、町のことを調べたいと思った時にために、今の町の姿を残している。地域資料は崇高なものではなく、地域のことを記録として残していく全てのものが該当する。
- ・「町のこしカード」という取組も行っており、例えば、町の人に白地図に螢が見られる場所を書き込んでもらうもので、そういう資料も、今の町の記録として全て残している。

(土方宗広 副委員長)

- ・貴重で今にも壊れてしまいそうな郷土の資料が地域資料と思ってしまいがちだが、地域の次の世代のために残すべき資料と考えるとたくさんのものが該当する。場所も限られている中で、図書館側が大変であると思うが、ぜひ今からでも検討してもらいたい。

(井村美里 委員)

- ・新庁舎の建設のときに実施したワークショップや今回の図書館のワークショップは、あまり他の市では見ない、常滑市らしい取組なので、ぜひ地域資料として残していただくと良いと思う。

第2節 登録・貸出・利用者サービス

(井村美里 委員)

- ・この先の議論にはなるが、新しい利用者層の拡大のために、第2節の1、2以外に何かできないか考えてみた。
- ・1点目は、これまで図書館が対象とする利用者を「市民」より広く捉えることはできないかということ。ワークショップでも観光客についての意見が出ていたように思う。

- ・2点目は、身近なところに本がある仕組みを作る工夫。昔、常滑市が実施していたあおぞら号という移動図書館の再開や、ワークショップの時に図書館が出張して関連する本を展示していた「出ていく図書館」というのも良いと思う。
- ・貸出に関するデータも重要ではあるが、来館者数のデータをとることも、色々な取組の効果を測る上では重要となる。現在は行っていないとのことだが、新しく整備する図書館の指標に必要だと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・第5回のワークショップで山際委員が「図書館は一体誰のものか」という質問を投げていたと思うが、質問の意図は何だったのか、お話をいただきたい。

(山際史子 委員)

- ・市民を対象にするのか、観光客を対象にするのかで、どんな資料を収集するかが変わってくるので質問した。

(山田朝夫 委員長)

- ・同じお金をかけるなら、市民の利用者にと考えているのかと思っていたが、ワークショップのメンバーの中でも、市外や海外からの観光客をターゲットにという話が多く出た。委員のみなさんはその点についてどう考えるか。
- ・図書館は採算がとれる施設ではないので、あまり観光での利用者を増やすことは考えなくてもいいのではと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・自分もそう思う。貸出冊数や利用登録者数などの指標はそれほど深く悩まなくとも良い指標だと思っている。
- ・観光客をターゲットにという意見は、海外の人に本を借りてもらいたいのか、図書館に来れば常滑市に関係することが分かるという意図だったのか、メンバーはどう考えていたのだろう。

(中井孝幸 委員)

- ・沖縄県恩納村の事例を紹介する。1階が観光情報のフロアで2階が図書館となっている。1階には、キオクボードとキオクバンクという設備がある。キオクボードは観光情報誌などでは得られない村内の情報を伝えるもので、キオクバンクは、観光客が写真を投稿し、それがストックされていくもの。ストックされた写真は壁面にあるマップナビという大型マップに反映され、他の観光客が今、咲いている花や行われているイベントなどを知ることができる。
- ・海外の方と日本の人で、魅力的だと思うことが違う。自分たちでは何とも思わないことが、観光資源だということもあるので、これらも一種の地域資料に関する取組ではないか。
- ・結局、どこに力点を置くかだと思う。観光客は、図書館の一般書のコ

ーナーには行かないので、市として観光政策との一つとして行う気があるかどうかということである。

(久田博司 委員)

- ・ワークショップの中でも、図書館を観光資源にという声があった。そこでは、図書館を海外から旅行に来る人の目的地にという印象だった。例えば金沢市の金沢海みらい図書館は世界の美しい図書館の一つとなっており、市としてそこまで目指すというのであれば、観光資源の一つとして、周りの施設を含めて相乗効果を生むことができるとは思う。
- ・図書館はサービス業だと考えているが、ワークショップやこれまでの委員会でも大きくは取り上げられていない。図書館で働く人の人材面の育成や強化というのが必要なのではないかと考えており、働く方の対応で、また来たいなと思うこともあると思うし、図書館内の展示一つをとっても、それによって図書館の印象が大きく変わる。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局からの提供データにもあるとおり、小学生・中学生が本を読んでいないと思うが、現場にいる先生方はどう感じられているか。勉強や習い事で忙しくて、図書館に来られないのではないかと思うが。

(中井明子 委員)

- ・たしかに図書館に行く時間がないのだとは思うが、図書館に行かないというよりは、そもそも本を読まない、あるいは日常の中で本を手に取ることがないのだと思う。
- ・読書の推進のための取組は色々とあるとは思うが、図書館の中だけでやっててしまうと、図書館に行かない生徒は知らないままだし、他の生徒の目に留まらないままである。先ほど、図書館の職員が外に出て行って、図書館以外の場所で展示を行うといった話があったが、そういった形であれば、生徒たちも本を手に取るきっかけになるので、良いのではないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・前回の基本構想策定委員会にて、常滑市の園文庫の取組を褒めていただいた。ただその一方で、それが小学校・中学校に繋がっていないというご指摘もいただいたと思うが、その点についてどうか。

(中井孝幸 委員)

- ・生徒の国語力が落ちており、テストなどでも問題文の意味が理解できないと聞く。市として、子供たちの読書を推進するという方針に舵を切り、新しい図書館では、活字に触れる環境を作ることを一つの柱にするのも良いのではないかと思う。

(土方宗広 副委員長)

- ・過去を振り返ってみると、小学校や中学校の頃は本を読まなかつたが、受験をきっかけに高校生や大学生から熱心に本を読み始めた。自分のように一度読まなくなつても、途中から本を読みだす人もいると思う。
- ・身近なところに本がずっとある環境を作るのも大切だと思うが、あらゆる世代にとって魅力的な図書館があつて、色々な年代の人が何かのきっかけで、図書館に行き、本を読むのを再開するということがあっても良いのではないかと思う。

(山際史子 委員)

- ・館長としての立場からは相応しくない発言かもしれないが、本をずっと読み続けなくとも良いが、小学校や中学校の時までに本を読む習慣を身に付けることは重要だと考える。
- ・例えば水泳の練習に例えると、ある時期から泳がない人もいるとは思うが、泳ぎ方を知らないと、何かあった時に泳げない。大人になって何か困って情報を得ようと思ったときに、子供の頃に読書の習慣がないと、本を読もうと思わないし、本から情報を得ることもできない。

(山田朝夫 委員長)

- ・自分は外から常滑市に来た人間だが、常滑市民はあまり図書館で本を読んでいないように感じる。常滑市での実利用者数が1割に満たないというデータがあるが、この人数は全国的に見ても少ないので。
- ・コミュニティが希薄になる傾向のある都市部ほど、定年退職後に居場所がなく、図書館で時間をつぶしている印象があるが、常滑市ではセカンドライフを忙しくしている高齢者が多く、利用が少ないことの一因ではないかと考えている。

(中井孝幸 委員)

- ・数年前に日進市で調査を行ったが、全国的に見ると市民の35%位は図書館を利用している。ただし、これは図書館で本を借りないが、図書館を利用しにくる人の数も入っている。
- ・常滑市は来館者数をとっていないとのことだったが、来館しない残りの7割の市民について、どうしたら図書館に呼べるのかを考えるのも一つの方針であると思う。
- ・地方であつても、定年退職後の余暇を過ごしている高齢者は多いと感じているので、地方でも都市部でも変わらないと思う。都市部の方が多く感じるのは、滞在時間が長いからではないか。

1 DX化による効率的なサービス提供

(豊田雄二郎 委員)

- ・返却場所の多様化についても貸出の面では重要である。駅やスーパーなどで無人で利用できるシステムについても検討してほしい。

(中井孝幸 委員)

- ・結局のところ、DX化については、ICタグを入れるか入れないかという議論にこの先なるので、検討いただきたい。
- ・自動貸出や予約本の受取についても、ICタグでなければできないというものでもないし、先ほど井村委員の意見であったような来館者数の把握には、それ以外の機能でも行うことができる。子供達に人気の読書通帳も、お薬手帳のようなシールの形で、アナログ的にやることもできる。

2 SNSの活用

(豊田雄二郎 委員)

- ・図書館側がSNSを利用して情報発信をすることは不得手だと思うので、個人が自発的に情報発信してくれるような仕掛けが必要ではないか。
- ・例えば常滑市の商業施設やカフェで利用できる地域通貨なども面白いのではないか。図書館のボランティアの参加者やブックスタート参加者にポイント付与するなども良いと思う。
- ・参考に岐阜県白川町の事例を紹介すると、商工会が中心となって地域通貨のシステムを導入し、人口7千人弱の町ではあるが、9割弱が利用している。初期費用は2800万円で、そのうち半分はデジタル田園都市国家構想交付金を活用しているので、常滑市規模でも十分対応できるのではないか。

第3節 これからの時代に求められる図書館の役割

1 課題解決の支援

(豊田雄二郎 委員)

- ・「協働の場」というのは「協働のきっかけとなる場」、「市民活動の場」は「市民活動を応援する場」というように、図書館が課題解決の支援をする場となることを強調した方が良いと思う。

- ・岐阜市のメディアコスモスでは、図書館の中に市の職員である市民活動推進委員がおり、利用者が何かやりたいなと思ったときに、本の紹介だけでなく、文化協会や地域の活動団体を紹介してくれて、次につながる手助けをしてくれる。そんな仕掛けも参考になればと思う。

(井村美里 委員)

- ・図書館が市民協働を担うのではなく、図書館がもっている「本や情報を活かして」支援していくことが重要な視点だと考える。

(山田朝夫 委員長)

- ・市民ワークショップの中でも課題解決の支援ということが話題になっていたが、公民館の役割ではないかという考え方もある。
- ・カウンター業務だけ委託にして、それ以外の部分は市の職員が担うなら、可能かもしれないが、常滑市のように生涯学習スポーツ課が図書館を所管するものの、図書館長からすべて指定管理に委託している場合に、図書館で可能なのか。

(山際史子 委員)

- ・「課題解決の支援」という形で仕様書に業務として書かれても、どこまで責任を負うべきなのか分からず請けづらい。

(山田朝夫 委員長)

- ・仮に図書館が市役所の中にあったとしても、名古屋市や岐阜市のように職員が多ければ可能かもしれないが、常滑市のようにほとんど余裕のない人数で対応している場合は、できないのではないかと心配している。

(豊田雄二郎 委員)

- ・課題そのものや調べた結果を図書館が市につなげていくのだと思う。そして実際に行動するのは、当然、行政であってもよいのだが、行政から、補助金や交付金などの仕組みを教えてもらい、市民が自身で課題解決することがあってもいい。

(中井孝幸 委員)

- ・指定管理の難しいところは、5年といった短いサイクルで業者が変わってしまうため、課題解決の支援といったスキルやノウハウが蓄積されていかない点にある。
- ・個人的には、貸出業務を委託にすることはあったとしても、図書館の運営は直営で行うのが一番良いと思っている。しかし、常滑市の場合に、今から直営に戻すのは難しい。指定管理の中でやるのであれば、逐一、報告書などを求めるのは動きづらいと思うので、ある程度、指定管理側に裁量を与えて、任してしまうのが良いと思う。
- ・図書館は公民館と違い、無料で使えるため、他の公共施設の中でも敷居が低いので、何かで利用するという「きっかけ」が継続されていくと、どこかで良い循環が生まれてくるのではないか。

(久田博司 委員)

- ・今回のワークショップの中で感じたのが、いつも接しない人たちが集まると新しい発見やアイディアが生まれるということ。図書館のヘビーユーザーの方が、若い人や子育て中の方の意見を聞いて、「こんな使い方をするんだ」という声を聞いた。図書館についての話題だけでもこれだけの人が集まって色々な発見があったのだから、色々な人が図書館に集まれば、もっとたくさんのきっかけが生まれると思う。
- ・例えば、常滑市の観光を盛り上げていくための討議や常滑の古いお寺について調べてみようといった研究課題に対する支援など、図書館自体が課題を解決する場でなくとも、サポートすることができれば良いのだと思う。

2 居心地の良い空間作り

- ・意見なし

(中井孝幸 委員)

- ・3つ目の課題として「交流」が抜けているので追加してほしい。実際に図書館で交流している人があまりいないのが現状で、小さな子供から高齢者まで、色々な年齢の人が一つの空間に集まっているのに、会話も生まれない。
- ・賑わいの創出が現在の図書館には求められている。幅広い世代が集まっているので、例えば、俳句の展示でも何でもよいので、図書館という場の中で何かが開催されてさえいれば、それが図書館にきた人の目に触れ、交流や出会い、きっかけが生まれるチャンスとなると考えている。

(土方宗広 副委員長)

- ・市民ワークショップの最終レポートの質問④「何にどれだけ力を入れる」のが良いかという質問に対する星の数を自分で集計してみた。
- ・結果は、261ポイントで①快適な読書・居場所空間が第1位、ついで、第2位が②図書資料の充実（238ポイント）、第3位が④ICTなどの設備の整備（204ポイント）、第4位が⑤学習室など勉強できる場所の充実（174ポイント）であった。この4項目は、市民の方が望まれていることだと思うので、ぜひ新しい図書館で取り組みたいと思っている。

(土方宗広 副委員長)

- ・常滑市立図書館基本構想策定委員会設置要綱の第1条に「常滑市にふさわしい図書館を早期に再整備するに当たり（以下略）」と書かれているとおり、この委員会では、図書館のことだけを考える場にするべきである。

(山田朝夫 委員長)

- ・第4節「家庭・地域との連携・協力」以降については、次回へ持ち越すこととする。

3 その他

(事務局)

- ・日程調整の結果、参加できない委員の方もおみえになるが、1月16日(金)、2月13日(金)の午後2時からで、追加開催を予定している。出席をお願いしたい。

(山田朝夫 委員長)

- ・10月15日(水)に「常滑の図書館のあり方を考える会」から、委員長あてに要望書をいただいた。要望内容については、お手元にお配りした要望書のとおり。今後、基本構想策定委員会などで検討していく。

4 閉会

- ・次回の委員会は11月11日（火）午後2時30分から開催
- ・会場は、常滑市役所1階 会議室G・Hの予定